

地域子育て支援センターを始める方々に－ I 宮崎栄樹

厚生省が子育て支援センターを提案した時に、注目したのが、
神奈川県下の茅ヶ崎・鎌倉等 5 市の先例であった。
支援センターがどのように発展、進化するべきか。
これは支援センター進化の 1 つの有効なモデルだ。

地域子育て支援センター成長の道筋－神奈川県下五市一町の挑戦

「子育て支援担当者は助手席に座る。運転は母達。」

1. 開拓期 研修・資料の収集（1984～1992）

2. 整備期（1993～1997）

2-1 活動の場：保育所中心／保育の技能を提供

- (1) 子育て支援担当者の 4 つの保育所への配置
保育所通所の保護者とは仲々会えず。在宅の母達には全く会えず。
- (2) 保健所等の母親学級同窓会に入らせてもらい遊びの指導。（母子保健事業と係る。）
- (3) 母親向けの育児講座開講。出席者に毎週 1 回の公園での合同保育を勧める。
（母子グループ作り）

2-2 活動の場：保育所から出て地域へ／保育の指導から人間関係作りへ意識を移す

- (4) 保育所の保育と連携した活動を断念し、子育て支援担当者独自の活動を模索する。元保母・園長でなく地域で活動してきている母達を、子育て支援担当者として採用する。「保育の技能」を尊重しつつ、「人間関係作り技能」を優先考慮することとする。
- (5) 活動の場を保育所内から「地域」に転換。
市役所や公民館の一室で、自由参加（いつ来てもいつ帰ってもいい）の子育て広場の開始。子育て支援担当者は見守り役に徹し指導的言動を慎むように努力する。孤立していそうな母達をチェック、後ろからそっとプッシュ。非常に好評。

2-3 母子一体の支援から母支援に軸足を移す

- (6) 回を重ねるごとに母達は子育て支援担当者と顔見知りになっていく。ここではじめて母達は本音を出し始める。重い質問・相談が噴出。離婚・虐待・嫁姑等。
- (7) 子育て支援担当者は情報を専門機関につなぎその存在理由が各機関で認められていく。
- (8) 母子一体の支援を薄め主に母親を脇から支え出す。「三世代同居ママの広場」等。

III 完成期（1998～ ）

- (1) 間借りでない専用の施設を茅ヶ崎駅の近くのビルの 3 階に借用設置。
毎週月～金の 9：00～16：00

- (2) 市内のあちこちに「広場」を設置。OGのちよつと先輩の母達が、担当者に就任。
- (3) 母達の自主企画によるイベントの一般化（客が主人にもなる。）。
- (4) 母達の問題解決能力の内在化。子育て支援担当者は助手席に座る。運転は母達。
（参考文献「子育て支援は親支援 その理念と方法」大揚社 2000 円）

宮崎栄樹